

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホームにこピア浄法寺		
所在地	岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	平成 29年 12月 12日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouyuu_detai_1_2016_022_kani=true&amp;gvsyoCd=0391300019-00&amp;PrEfCd=03&amp;Ver si onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouyuu_detai_1_2016_022_kani=true&amp;gvsyoCd=0391300019-00&amp;PrEfCd=03&amp;Ver si onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 12 月 20 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元小学校を改築し福祉施設として活用している。校舎の名残を感じる箇所もあり、見学者からも懐かしさを感じるという声も頂いている。施設内のスペースも広く、四季問わず運動ができる構造となっている。施設周辺は静かな環境であり、外の散歩についても危険度が低く利用者のペースで生活ができています。  
 職員の離職率も低く、勤続7年以上就労している職員が8割以上であり、チーム間での意見交換も活発である。利用者、家族、職員と三位一体となり、1利用者を支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小学校校舎の雰囲気を残しつつ改修されたホームは、柔らかな色調で温かみのある建物になっている。ホームは2階にあり、1階は小規模多機能ホームとなっており、管理者が兼務している。会議や行事等に合同で取り組むこともあり、両ホーム職員の連携意識は高い。毎年度の事業方針に基づく取り組み事項を明確にし、半期毎に評価を行うなど、計画的な運営に努めている。職員は利用者やゆったり過ごす時間を大切にしており、利用者が希望すること、やりたいことに寄り添って支援している。地域消防団の指導、助言を始め、老人クラブ、地域住民の冬季の除雪協力など、地域との結びつきもあるが、地域全体の人口減少が著しく、高齢者世帯の割合が一層高くなる状況の中で、介護保険サービス対象となっていない地域高齢者に対し、1階の小規模多機能ホームとともにホームが有する認知症に関する知見を活かした地域貢献が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画を基に運営方針、理念の確認をしている。取り組み事項を毎月評価をして進捗状況を確認している。	運営母体の法人が、青森、岩手、宮城を中心に16法人で結成するグループに加入しており、グループの共通理念や事業方針に基づき、ホームとしての年間の事業方針と具体的取り組み事項を定め、毎月進捗状況を確認しながら半期毎に評価を行っている。特に、人口減少の激しい地域の中で、高齢者等地域の方々との交流を事業方針に掲げ、取り組みに力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動として施設周辺のゴミ拾い、環境整備活動を行い交流をしている。	地域老人クラブとの繋がりが強く、敷地内の草刈り、除雪、樹木の伐採など、1年を通して協力をいただいている。地域のお祭り、清掃活動、花壇の手入れなどに出来るだけ参加するように努めている。ホームの敬老会には地域の踊りボランティアが来所し、交流してくれる。地域に幼稚園、保育所がなく、子ども達との交流は中学生の体験学習時の交流に限られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習を受け入れ、若年層に対して認知症高齢者の理解に努める活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員メンバーへ状況報告の他に、意見交換の場を設けて第三者的視点で意見を頂いている。	小規模多機能ホームと合同で開催され、利用者減への対応や初の屋内運動会の評価等、運営に関し活発な意見交換がなされている。行事に合わせて委員会を開催し、利用者や家族と交流してもらう機会も作っている。	運営推進会議のメンバーは、ホームの最強の応援団であり、地域とのパイプ役でもある。ホームの運営状況の報告に留まらず、こちらからテーマを設定し、内容によっては、ゲストを招き、共に協議、検討するなど、内容の工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	渉外活動を通じて情報交換をして広域内の活動状況、自施設状況を確認し、運営に役立てている。	書類の手続きは本庁舎で、その他は総合支所の担当課と連携を図っている。市からは入居情報や制度改正等の情報を得ており、生活保護受給者に関して担当課と制度上の取扱い等について協議することも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束勉強会を通じて意味の理解をしている。行動の制限をせず、利用者の要望に限りなく応えている。	身体拘束防止を年間の研修テーマに掲げ、管理者の用意した資料で勉強会を行い、職員の理解を深めるよう努めている。外出しようとする利用者は1階で引き返すことが多く、外までは出て行かない。利用者のその日、その場の様子を細かく把握しながら対応しており、言葉による拘束場面もなく、利用者の要望に応えながら、自由な生活を送れるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待勉強会を通じて意味を理解している。他に意見交換をする機会をつくり、会議で個々職員の考えを述べたり検討する場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について勉強会を通じて内容の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面に沿い説明をしている。変更があった際は書面のみならず、口頭で説明して、理解していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時のコミュニケーションで家族の要望等を聞いている。要望に対しては職員で検討する場を設けて対応している。	家族が面会や通院で来訪した際、要望等を聴取している。また、毎月発行する家族向け通信「にこにこ」に居室担当職員が1カ月の生活の様子を肉筆で知らせており、家族からの記入欄も設け、意見や要望を確認している。最近では、車椅子利用者の通院について、家族での対応が難しいとの要望があったことから、職員対応となった例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の意見を述べる機会を設けている。可能な限り、挙げられた要望は応えるようにしている。	毎月開催する職員会議で職員の意見や要望を聞く他、毎日のミーティング等で日常的に率直な意見交換を行い、施設設備の改善、支援方法の工夫、勤務体制の見直し等に反映している。法人に判断を仰ぐ案件は、年2回の法人全体の管理者会議に諮ることとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	管理者は各職員の状況を把握に努め、実績に応じて昇給、待遇改善に努めている。要望等を職員から募り、極力実現できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外、内部研修への参加によりスキルアップ、人事交流の機会をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム施設との交換研修、研修参加により人事交流の場をつくっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人、家族の要望をもとに支援方法を模索している。困っている事に対しては地域資源の活用等で解消できるよう包括的に提案している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談、契約時、書面を通じて説明をしている。不安な点、不明点について説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所検討時、支援に対して想定をたてて利用者を迎えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができる事を把握したうえで役割をつくるようにしている。職員と行動をし、一方的な介護にならぬよう配慮している。困難な事に対しては、職員も難しい点を支援しながら活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報を通じての状況報告、受診後の結果報告と家族との関わりが疎遠にならないように接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事を通じて馴染みのある環境と繋げるよう配慮して計画をたてている。	家族との関係が途切れないようにすることを最優先しており、家族や孫の他、親戚や知人が会いに来る利用者もいる。ドライブの際には、自宅周辺を廻ることもある。設置している公衆電話で自由に家族と話している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者との交流を図れるよう、レクリエーションを行っている。訴えが消極的な方については職員が間に入り交流の機会をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の要望に応じている。情報提供の同意を得たうえで他機関からの質問に答えている。家族からの質問、要望に対しても応えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員本位ではなく、利用者にとって安心感を提供できるようにしている。時折、集団でのレクリエーションを取り入れて、孤立しないように配慮している。	半数を超える利用者は、日常的な会話を通じて自分の思いや希望を表現出来る。職員は出来るだけ利用者寄り添い、ゆったりとした時間を確保するよう努めている。また、出来ること、やりたいことに取り組んでもらうよう支援しており、皆でレクリエーションに興じたり、洗濯物たたみ、ホール掃除などを手伝ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、家族、利用者本人からの情報をもとに支援をしている。環境面では湯呑、箸、時計等馴染みのある物を利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者状況に合わせて裁縫、塗り絵など個人の活動、集団レクリエーションと分けて支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開き、内容について話し合いをしている。意見をもとにケアプランの作成に役立てている。	「ケアプランチェック実施表」に居室担当職員が毎日プラン項目毎に実施状況や気付いたことを記録し、毎月のカンファレンス会議での協議を経て、6カ月毎にモニタリングを行い、見直しが必要な場合は、家族の意見も聞きながらケアプランの変更を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通常と異なる事項については介護記録、連絡帳に記載している。変更点については連絡帳に記載して情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉サービスを利用しての家族負担の軽減、受診に対して不安をいただいている方については同行をして家族の代わりに状況説明をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事への参加、外出機会を設け施設内に留まらないようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との契約を結び、状態変化に合わせて相談をしている。必要時は紹介状にて専門科への受診対応している。家族の要望により既存病院への受診希望には希望に沿った対応をしている。	かかりつけ医は主として地域の国保診療所になっており、専門医の診療が必要な時は紹介状を出してもらい、受診時に必要な情報は書面にまとめ、適切な受診になるよう努めている。緊急時には、診療所の看護師に相談し、支援を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の視点として変わった点、相談したい点をまとめて相談をするようにしている。看護師としての意見を聞き、受診対応等迅速に対応するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを病院へ提供している。入院後も病院、家族とも連絡を取り合い現状の把握、今後の方向性について関わりをもっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針をもとに契約を結び、書面に沿って説明、同意を得ている。	法人として重度化や看取りの指針は策定しているが、現状では、町内に開業医もなく、夜間診療も出来ないことから、ホームでの看取りは難しい。家族には、入所時に、重度化、終末期を迎えた時点で、次の対応を話し合うことで理解を得ている。受け入れ病院として、八戸市の法人本部の近くにあるクリニックと連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを通じて対応法を把握している。不明な点は看護師、管理者と連絡経路に沿ってフォローできる体制である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて非常時の行動を実践している。地元消防団との繋がりもあり、消防団の協力を得ている。	地元消防団は、旧小学校校舎である当ホームを重要施設として災害訓練等に協力、支援をしてくれる。また、運営推進会議のメンバーである分団長からは、より細かい助言を貰っている。ホームが2階にあることから、消防署の指導、助言を得て定めた避難方法を職員、利用者とも何度も確認している。消防への直通通報システムや発電機、備蓄などを整え、万一の災害に備えている。	ホームが2階にあること、利用者の介護の状況も変化していくことから、消防団の助言を得ながら、様々な災害の発生を想定し、利用者の心身の状況に合わせた避難訓練のシミュレーションを組み立て、倦むことなく自主訓練を繰り返し実施することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルをもとに勉強会を開催している。介助面では最小限の露出。関わりではその時の話し、要望に耳を傾け対応している。	法人の理念の柱にホスピタル精神(おもてなし)が掲げられ、接遇マニュアルの中にプライバシー確保や人権尊重の項目もあり、勉強会等で職員共有を図っている。職員の都合に合わせてことなく、利用者の一人ひとりに合ったペースで日々の暮らしが出来るよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物の同行、衣類の選択など自己決定を踏まえたうえで支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重して職員本位のペースにならないよう支援している。要望のない方に対しては会話を通じて要望を聞き、実現できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、外出時の衣類の選択と利用者の趣向に合わせてできるだけ自己決定して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全てではないが、献立をたてる際、利用者の趣向を訪ねて献立を考えている。苦手な食材については極力外して、代用品で食事を提供している。	献立は、職員が利用者の嗜好も取り入れながら、バランスの取れたものを作るよう努めている。3日分の献立に合わせた食材の買い出しに、利用者が同行する時もある。お茶出し、配膳、盛り付け、後片付けなど、利用者には出来る範囲で力を発揮している。誕生日のケーキ、行事の時の仕出し弁当等、食事に変化をもたせるとともに、楽しい食事になるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を基本として利用者の食事摂取状況の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食毎に口腔ケアを勧めている。自力で困難な方に対しては口腔ケアシートを使用して口腔内の残渣物の除去に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立のされていない方に対して、定期的にトイレ誘導をしている。自立している方についても排泄チェック表をもとに声かけをして排泄管理をしている。	排泄チェック表を使い、声掛けや見守りにより、日中は殆どの方がトイレで用を足している。夜間も介助が必要な2人を除き、自分で起きてトイレに向かう。病院を退院後、最初は失禁などの失敗があったが、時間を定めた誘導で、きちんと排泄が出来るようになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取を勧めたり、献立に根菜類を使用するようにしている。気候を見て運動を取り入れたりし、便秘の改善に繋がる活動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間の取り決めは行っておらず利用者の気持ちに合わせて声かけをして入浴をしている。入浴時間についても個々に合った時間を見極めて入浴をしている。	週2回、午前と午後どちらでも入浴出来るが、午前中に入る人が多い。異性介助への抵抗感はなく、職員は見守りを中心に介助しており、機能の低下した利用者には椅子を用意している。柚子の香りなど季節に合わせた入浴剤を使用し、よく温まり、気持ちよく入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の時間を決めておらず、利用者個々の就寝のタイミングで休んで頂いている。不安感のある方については同室で入眠するまで寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院録、薬の説明書を職員個々に理解して対応している。利用者の状態を見極めて看護師に相談をし、かかりつけ医に状態報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、テーブル拭き、お茶の配膳等、可能な方ではあるが役割として日常的に職員と活動している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物の同行と施設内のみで生活をおくらないよう、気候をみて声をかけて外出機会をつくっている。	グラウンドのあった前庭は広く、周辺を散歩したり、玄関前の長椅子で日向ぼっこを楽しむ。家族に誘われ外出する利用者もいる。冬は積雪が多く、外出の機会が減ることから、お花見、紅葉狩り等、時季にあわせ、ドライブに出掛ける機会を出来るだけ多くつくるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事等で金銭を利用する機会をつくっている。金銭は職員が支払うのではなく、可能な方は利用者本人に支払いをしていただくよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置をしていつでも利用できるようになっている。困難な方に対しては職員から家族へ伝達をして利用者の要望を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った創作物の掲示をしている。掲示物も利用者と職員の合作した物を見える所に貼り出しをしている。	築30年程経過した小学校校舎の広い廊下や階段を上手く活用しながら、高い天井や床を施設向けに改修し、広く、明るく、清潔で居心地のいいホールや居室に再生した。利用者は広いグラウンドを眺めながら、大型テレビの前の長テーブルでゆったりと過ごしている。広い廊下の暖房が課題になっていたが、FF暖房機を増設し、解決した。ホールや廊下の壁には、利用者の作品が貼られ、利用者皆で制作した大きな干支のちぎり絵がひと際目を惹く。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを繋ぎ合せての設置、畳間をホールに用意して利用者同士が同じ空間で過ごしやすようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、利用者の馴染みの物、趣向品を用意していただけるよう説明をしている。居室にはラジオを置かれる方。馴染みの湯のみを使用する方もおり、安心できる環境を配慮している。	各居室の入口に表札の他、花や鳥の写真を飾っている。ベッド、キャビネット、ソファセット、大きめのロッカー、FF暖房機など心配りのある備え付けになっている。清潔感のある部屋に使い慣れたテレビや時計、馴染みの小物等を持ち込み、家族写真や自分の作品を飾るなど、それぞれが安心して居心地よく過ごせる居室になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが不明な方もおり、記名する事で把握している方もいる。居室には目印をたて自室と他室を判断をしている方もいる。床は衝撃を和らげる素材の床である。		